

令和4年度 高等学校新入生徒の学力に関する研究（国語）

愛知県国語教育研究会高等学校部会では、愛知県総合教育センターと共同で、毎年県内の参加を希望した高等学校等において、その新入生徒を対象に国語学力調査を実施し、結果の集計・分析及び考察を行っている。

本研究は、次の内容で、本年度分についてまとめたものである。

- (1) 調査の趣旨，調査の実施及び処理，調査結果の概要，分析結果の概要
- (2) 調査問題の構成とねらい，大問別・小問別正答率など
- (3) 調査問題及び解答例，応答分析，考察，指導上の留意点など

<検索用キーワード>

国語 高等学校 中学校 中高連携 学力調査 正答率 応答分析 読解力

研究会委員

愛知県立旭丘高等学校教諭	廣瀬 民
愛知県立城北つばさ高等学校教諭	佐久間綾花
愛知県立昭和高等学校教諭	佐藤 彰紀
愛知県立瀬戸北総合高等学校教諭	平井 尚子
愛知県立日進高等学校教諭	尾身 圭介
愛知県立日進西高等学校教諭	牛田 佳宏
愛知県立小牧南高等学校教諭	石黒 裕加
愛知県立知多翔洋高等学校教諭	竹尾紗絵子
愛知県立豊田高等学校教諭	真野 恭平
愛知県立豊橋東高等学校教諭	前田 晶紀
愛知県総合教育センター研究指導主事	松井 亮
愛知県総合教育センター研究指導主事	三浦千加子（主務者）

目次

1 調査の趣旨	2
2 調査の実施及び処理	2
3 調査結果の概要	2
4 分析結果の概要	3
5 調査問題の構成及び正答率	4
6 調査問題（一部掲載省略）及び解答	6
7 問題別応答分析と指導上の留意点	
(1) 大問 [一] 現代文（論理的文章）の応答分析，考察，指導上の留意点	8
(2) 大問 [二] 現代文（文学的文章）の応答分析，考察，指導上の留意点	12
(3) 大問 [三] 国語基礎力の応答分析，考察，指導上の留意点	16
(4) 大問 [四] 古典（古文）の応答分析，考察，指導上の留意点	21

1 調査の趣旨

この調査は、昭和30年度以来、名古屋地区国語研究会が中心となって、県内の国公立高等学校の新入学生徒を対象に実施してきた。昭和45年度からは、愛知県総合教育センター（昭和40年度より事業に参加）と愛知県国語教育研究会高等学校部会との共同研究調査として、調査問題の作成、統計的処理、結果の考察等を行っている。この調査は、次の資料を得ることを目的としている。

- ア 中学校及び高等学校における国語教育に関する基礎資料
- イ 中学校及び高等学校の国語教育の関連という観点での指導資料
- ウ 全県的な規模における高等学校新入学生徒の国語学力を捉えるための参考資料

2 調査の実施及び処理

(1) 実施の時期及び方法

3月下旬から4月中旬までの間に、各校の実状に応じて適宜調査を実施した。なお、解答時間は50分とした（問題用紙はA4判右とじ、解答用紙はA4判1枚）。

(2) 参加校及び生徒数

期限までに資料の提出があった103校（2学科以上ある参加校はそれぞれの学科を1校とした）の20,249名について諸調査統計の処理をした。

(3) 統計上の調査事項

各参加校には次の事項について回答を求めた。

- ア 個人別得点分布
- イ 各校10%の無作為の抽出による、各小問ごとの個人得点

(4) 小問別応答分析等（詳細分析は8ページから24ページまで）

6校から提供された300名の答案を到達度による得点区分によって、a群＝上位100人、b群＝中位100人、c群＝下位100人に分け、答案に直接当たって応答分析を以下のように行った。各群の答案を、正答と誤答に分け、誤答については、分類し詳細な分析を行った。

<分類例>

〈a－b－c型〉	各群間の差がほぼ等間隔
〈a－b c型〉	a群とb群、b群とc群との間隔の差が2：1程度以上
〈a b－c型〉	a群とb群、b群とc群との間隔の差が1：2程度以上
〈a b c型〉	各群の間隔の差がほとんどない場合
〈b a c型〉	各群の間隔の差がほとんどなく、b群がa群を上回った場合
〈a c b型〉	各群の間隔の差がほとんどなく、c群がb群を上回った場合

3 調査結果の概要

調査対象の個人得点を10点幅の得点分布に分けて、平均点・標準偏差をまとめたものが、次の表1である。なお、過去5年間の個人得点分布・平均点・標準偏差との経年比較を行った。

(表1)

年度別 人数 得点	令和4年 20,249名		令和3年 20,367名		令和2年 7,535名		令和元年 22,059名		平成30年 24,367名		平成29年 26,327名	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
90～100	226	1.1	541	2.7	93	1.2	217	1.0	1,242	5.1	438	1.7
80～89	1,404	6.9	2,591	12.7	391	5.2	1,209	5.5	2,885	11.8	2,454	9.3
70～79	3,397	16.8	4,628	22.7	920	12.2	2,943	13.3	4,111	16.9	4,658	17.7
60～69	4,142	20.5	4,865	23.9	1,319	17.5	4,473	20.3	4,572	18.8	5,604	21.3
50～59	3,962	19.6	3,695	18.1	1,478	19.6	4,919	22.3	4,215	17.3	5,188	19.7
40～49	3,114	15.4	2,267	11.1	1,387	18.4	4,013	18.2	3,391	13.9	3,804	14.4
30～39	2,195	10.8	1,083	5.3	1,042	13.8	2,519	11.4	2,204	9.0	2,384	9.1
20～29	1,232	6.1	512	2.5	592	7.9	1,212	5.5	1,183	4.9	1,235	4.7
10～19	493	2.4	154	0.8	252	3.3	479	2.2	501	2.1	480	1.8
0～9	84	0.4	31	0.2	61	0.8	75	0.3	63	0.3	82	0.3
平均点	55.7		63.0		52.0		54.4		59.7		58.1	
標準偏差	18.1		16.4		18.6		17.2		19.5		17.9	

4 分析結果の概要（詳細分析は8ページから24ページまで）※データについては5ページ参照。

(1) 論理的文章（大問〔一〕）を読む力について

外山滋比古著『忘却の整理学』と河原宏著『科学文明の「信」を問う「存在・時間・生命の情理」』より、著作権の許諾を取った上で出題した。大問一全体の正答率は45.9%で、特に傍線部の内容を文脈に則して理解する小問五では、正答率は29.4%にとどまった。今後は、叙述を基に内容を的確に捉え、要点を把握することができるように指導する必要がある。

(2) 文学的文章（大問〔二〕）を読む力について

寺地はるな著『水を縫う』より、著作権の許諾を取った上で出題した。大問二全体の正答率は60.3%で、登場人物の心情の変化についてはおおむね的確に読み取ることができることが分かった。しかし、具体的な言葉に抽象的な意味を込めた象徴表現を、叙述に則して読み取る力が求められる小問五では、正答率は42.6%にとどまった。今後は、さまざまな表現に触れて語彙を豊かにするとともに、文章の中の描写を根拠に、象徴表現や比喻表現に込められた作者の意図を的確に読み取る学習活動を充実させる必要がある。

(3) 国語基礎力（大問〔三〕）について

前半は情報の理解と整理・統合について、後半は漢字の読み書きや言葉の知識について出題した。小問一(1)～(4)の問いでは、グラフ資料を的確に読み取った上で、選択肢の言葉を丁寧に読み取り、判断する力が必要であったが、平均正答率は約80%であり、おおむね読み取ることができた。小問二～五の問いでは、慣用表現に関する知識についての小問五が、正答率25.2%にとどまった。今後は、我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増やし、文章の中で使うことを通して語感を磨き、語彙を豊かにする必要がある。

(4) 古文（大問〔四〕）を読む力について

江戸時代後期の随筆、根岸鎮衛著『耳囊』より出題した。大問四全体の正答率は52.2%で、文脈を的確に読み取り、本文の内容を理解できたとは言いがたい。特に文脈を適切に理解した上で空欄に適語を補充する小問二では正答率が41.7%にとどまった。今後は、古典を読む

ために必要な文語のきまりや古典特有の表現などについて理解を深めるよう導くとともに、作品や文章の歴史的・文化的な背景などの理解につながる古典学習の指導の工夫が必要である。

5 調査問題の構成及び正答率

(1) 調査問題の構成とねらい

調査問題は、現代文2題（論理的な文章と文学的な文章）、国語基礎力1題及び古典（古文）1題によって構成した。各小問のねらいや配点を表2に示す。

(表2)

大問	分野・領域	小問	小問のねらい	設問形態	小問数	配点			
一	現代文 (論理的な文章)	一	内容の理解	記述	1	4×1			
		二	内容の具体化	選択 (1/5)	1	4×1			
		三	内容の理解	選択 (1/5)	1	4×1			
		四	内容の理解	記述	1	6×1			
		五	内容の理解	選択 (1/5)	1	6×1			
		六	内容の理解	選択 (1/5)	1	6×1			
					<6>	計30点			
二	現代文 (文学的な文章)	一	人物像の理解	選択 (1/5)	1	2×1			
		二	心情の理解	選択 (1/5)	1	2×1			
		三	心情の理解	選択 (1/5)	1	4×1			
		四	心情の理解	選択 (1/5)	1	4×1			
		五	心情の理解	記述	1	4×1			
		六	表現の理解	選択 (1/5)	1	4×1			
					<6>	計20点			
三	国語基礎力 (漢字・語彙等)	一	情報の理解と整理・統合	選択 (1/5)	1	2×1			
			(1)(2) グラフが表す情報を 読み取る						
			(3) 情報を的確に言い換える						
			(4) さまざまな情報を図式化する						
			文法についての確認						
			表現についての理解						
		二 三 四 五 六	同音異義語の知識	選択 (1/5)	1	2×1			
			慣用表現についての知識	選択 (1/5)	1	2×1			
			漢字の読みと書き取り	記述	6	2×6			
					<14>	計30点			
			四	古典 (古文)	一	歴史的仮名遣いの確認	記述	1	2×1
					二	内容の理解	記述	1	2×1
三	内容の理解	選択 (1/5)			1	4×1			
四	心情の理解	選択 (1/5)			1	4×1			
五	内容の理解	選択 (1/5)			1	4×1			
六	内容の理解	選択 (1/5)			1	4×1			
					<6>	計20点			

(2) 大問別・小問別正答率

次の表3は、各校の、無作為に抽出された10%の生徒の得点を処理して、正答率(%)を求めたものである〔大問正答率は、各小問の加重平均〕。

	平均点	標準偏差
全体	55.7	18.1

調査校全体 (103校 抽出生徒数 2,093人)

(表3)

	1 論理的文章					
問題番号	一	二	三	四	五	六
配点	4	4	4	6	6	6
正答率	48.2	50.4	69.8	36.4	29.4	51.2
大問正答率%	45.9					

	2 文学的文章					
問題番号	一	二	三	四	五	六
配点	2	2	4	4	4	4
正答率	81.6	60.0	56.6	77.6	42.6	54.1
大問正答率%	60.3					

	3 国語基礎力					
問題番号	一(1)	一(2)	一(3)	一(4)		
配点	2	2	2	4		
正答率	90.3	67.5	93.3	70.0		
問題番号	二	三	四	五		
配点	2	2	2	2		
正答率	62.8	89.2	76.3	25.2		
問題番号	六(1)	六(2)	六(3)	六(4)	六(5)	六(6)
配点	2	2	2	2	2	2
正答率	61.9	25.1	59.0	63.5	69.0	45.7
大問正答率%	64.6					

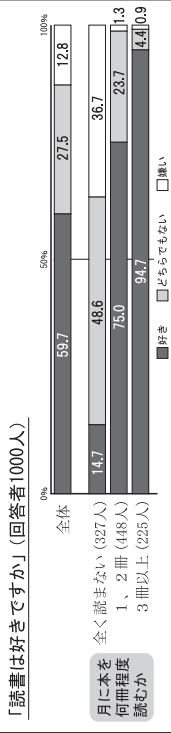
	4 古典的文章					
問題番号	一	二	三	四	五	六
配点	2	2	4	4	4	4
正答率	94.9	42.6	50.5	47.3	51.0	49.5
大問正答率%	52.2					

6 調査問題（一部掲載省略）及び解答

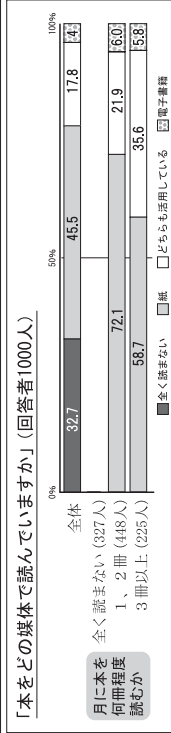
【三】 次の問いに答えよ。

問一 次の資料は、日本財団が二〇二〇年に17歳から19歳までの男女一〇〇〇人に行った「18歳意識調査」を基に作成したものである。なお、この調査における「本」には、雑誌・漫画等を含んでいる。あとの問いに答えよ。

【資料1】



【資料2】



【資料3】

本を読む媒体「紙」の管理理由(自由回答)まとめ

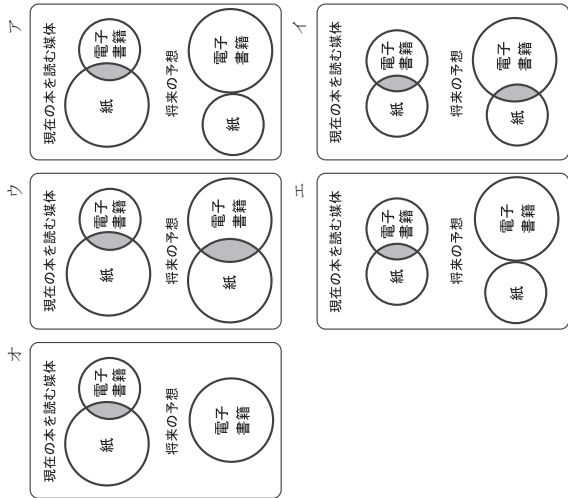
- 「紙」で読む理由として、「買った感を得ることができる」「自分の手元に置いておきたい」「手に紙として持つことで読む方が、読んでいる気になる」「ページをめくることが好き」など、電子書籍より本を読むという理由が多く挙げられた。

本を読む媒体「どちらでも活用」「電子書籍」の管理理由(自由回答)まとめ

- 「どちらでも活用している」の理由は、「紙をめくりに慣れているから、電子は荷物が増えないから読む」「電子書籍は気になる本の試し読みができる。紙媒体は集めたいかな、電など、紙・電子書籍それぞれの良さがあるという意見」「読心地は紙の方が好きだが、電子書籍はかさばらないので、家で読むのと外で読むものとで分けている」「話が長い漫画はアプリで、1冊で終わる小説などは購入します」など、読む場所や本のジャンルによっても使い分けられているという回答が多く挙げられた。
- 「電子書籍」の理由では、「アプリで手軽に読めるから」「外で読みやすいため」「場所を取らないし、片手で読むことが出来るから」という点で利便性を感じている。

(4) Aさんは資料を基に、「紙の本と電子書籍」というタイトルでプレゼンテーションを行うことにした。Aさんの【主張】に合致するプレゼンテーション資料のレイアウトとして最も適切なものを次から選び、かな符号で答えよ。

【主張】 利用者が感じているそれぞれの利点から考えると、今後電子書籍の利用は拡大していくのではないかと。



問二 次の文の傍線部と、同じ品詞であるものをあとから選び、かな符号で答えよ。

- ・ 朝の教室は**とても静かだ**。
- ア この本は**名作だ**。
- ウ 彼は**勉強に励んだ**。
- オ 明るい声**が響いた**。
- イ 花の**美しさが際立つ**。
- エ 彼は**勇敢な男だ**。

(1) 【資料1】から読み取れることとして**適当でないもの**を次から選び、かな符号で答えよ。

- ア 月に本を全く読まない人でも、「読書が嫌い」と答えた人は半数以下である。
- イ 月に本を1冊以上読んでいる人に、「読書が嫌い」と答えた人は少ない。
- ウ 月に本を1冊でも読んでいる人の7割以上は「読書が好き」と答えている。
- エ 月に本を3冊以上読むと答えた人は、全体の回答者のうちの3割以下である。
- オ 月に本を3冊以上読む人は、9割以上が「読書が好き」と答えている。

(2) 【資料2】から読み取れることとして最も適切なものを次から選び、かな符号で答えよ。

- ア 媒体を問わず月に本を読む人は半数以上いるが、そのうち紙の本を使う人は半数以下である。
- イ 月に本を3冊以上読む人のうち、紙の本だけを使って読んでいる人は半数以下である。
- ウ 月に本を何冊読むかにかかわらず、電子書籍を全く使わない人は全体の半数以下である。
- エ 月に読む本の冊数が増えるほど、電子書籍でしか本を読まない人の割合が増える。
- オ 月に読む本の冊数が増えるにつれて、紙の本と電子書籍とを併用して読む人の割合が増える。

(3) 【資料3】の空欄に入るものとして最も適切なものを次から選び、かな符号で答えよ。

- ア 実物としてあることの満足感が得られる
- イ 友人と気軽に貸し借することができる
- ウ ページの行き来がしやすく早く読める
- エ 目にやさしく視力低下を防ぐことができる
- オ 読書後の感動を常に思い出すことができる

問三 次の例文と傍線部の意味の組み合わせとして適切なものを選び、かな符号で答えよ。

- ア 「ねずみと話すのもなかなかつかれるぞ!」……………命令
 - イ 「なんだい。それがドレミファかい!」……………願望
 - ウ 「こら、いいかげんにしななな!」……………疑問
 - エ 「諸君。演奏会までもうあと十日しかないんだよ!」……………感動
 - オ 「生意気なことを言うな!」……………禁止
- (宮沢賢治「雪のゴトウ」)

問四 次の傍線部の漢字の使い方として**適当でないもの**を選び、かな符号で答えよ。

- ア 関刊の雑誌を取り寄せることもできます。
- イ これはこの国の産業の**基幹**をなす重要な分野だ。
- ウ このグループは独自の**機関誌**を発行している。
- エ 決められた**欄**のうちに申請してほしい。
- オ 胃や腸は食物を消化し**吸収**するための**器官**です。

問五 次の傍線部の慣用句のうち正しいものを選び、かな符号で答えよ。

- ア 先輩の機嫌が悪くて**取りつく暇**もない。
- イ あの子は選手の上にも**置けない奴**だ。
- ウ この前の大会での**汚名**を挽回する機会だ。
- エ 彼に白羽の矢を当てるのは**まだい前**だ。
- オ 彼女は部長を**口先三寸**で丸め込んだ。

問六 次の傍線部のカタカナは漢字に漢字はひらがなに直せ。

- (1) 内閣の**シジ**率を調査する。
- (2) この試合での勝利に**シウカチヤク**する。
- (3) 彼女の発言で**空気**が**ナク**んだ。
- (4) 彼は**昨年**の自分を**衒**みた。
- (5) 私の友人には**潮欄**なところがある。
- (6) 繁華街の**細路**に給れる。

【四】 次の文章を読んで、あとの問いに答えよ。

いつの頃にやありけん、長崎の町家（註）の石ずへになしたる石あり。不断水気うるをひしを唐人見て、「右石を磨（註）ひたき」よし申しければ、「子細（註）ある石ならん」と其の主人（註）をれをおしめ、右石ずへを取り替へて取り入れて見し。いっまでもに、とこしなへにうるをひ の出るにぞ、「是れは果たして石中に玉こそ有りなん」と色々評義して、ふむより進々に研ぎとりけるに、酷つて打ち割りぬ。其の石中より水流れ出て小魚出たなみ、忽ち（註）に死しければ取り捨てて済ましぬ。其の事、跡にて彼の唐人聞きて涙を流して是れをおしめる故くはしく尋ねれば、「右は玉中に磨（註）きしものありて、右玉の損ぜざるやうに静かに磨きあげぬれば千金の器物なり。おしむべしおしむべし」といひしとや。世に戴冠などいへる類ひもかかものなるべしと、彼の地へ至りし者語りぬ。

（『耳義』巻之三「玉石の事」）

※注 石ずへ 礎石。建物の土台にしている石。
 唐人 外国人。
 磨（註） 隠れひそむこと。

問一 波線部「うるをひ」を現代かなづかい（ひらがな）で記せ。

問二 に入る語を本文中から一字で抜き出して答えよ。

問三 傍線部①「子細ある石ならん」の解釈として、最も適当なものを次から選び、かな符号で答えよ。
 ア 特別な事情のある石ではなさそうだ。
 イ 細工のほどこされた石ではない。
 ウ 特別な事情のある石であろう。
 エ 細工のほどこされた石であろう。
 オ 特別な事情のある石であつてはならない。

問四 傍線部②「涙を流して」とあるが、このときの唐人の心情として、最も適当なものを次から選び、かな符号で答えよ。

ア 石を何人もの人を雇つて磨いたために、途方もない額の金銭を費やしたことを悔しく思う気持ち。
 イ 石を無理に研ぎ削つてしまったために、小魚に傷を負わせて死なせたことを悲しく思う気持ち。
 ウ 石を磨く技術が未熟だったために、中に入っているはずの小魚を見られなかったことを残念に思う気持ち。
 エ 石を研ぎ削ることに没頭しすぎたために、小魚の供養をしなかったことを悔けなく思う気持ち。
 オ 石を丁寧に磨かなかつたために、価値のあるものを破損してしまつたことを残念に思う気持ち。

問五 本文中の「石ずへ」の断面を模式的に示したものとして、最も適当なものを次から選び、かな符号で答えよ。



問六 本文から読み取れるものとして、最も適当なものを次から選び、かな符号で答えよ。

ア 才能のある者は他者の意見を聞き入れることが多い。
 イ 才能のある者は他者と切磋琢磨（註）しなければ成長しない。
 ウ 才能のある者は独力で人生を切り開くことができる。
 エ 才能のある者も正しく扱われなければ力を発揮しない。
 オ 才能のある者は常に好奇心をもつて学習をしている。

令和四年度 新入生国語学力調査問題（解答と配点）

※かな符号で答えるべきところを選択肢の内容で答えた場合も正解とする。

問一	まだら模様	問二	ア	問三	エ
問四	好 ま し い も	問五	イ	問六	ウ

問一～問三は各4点 問四～問六は各6点 《小計30点》

問一	オ	問二	ウ	問三	ア	問四	イ	問五	覚 悟	問六	エ
----	---	----	---	----	---	----	---	----	-----	----	---

問一・問二は各2点
 問三～問六は各4点
 《小計20点》

問一	(1)	イ	(2)	オ	(3)	ア	(4)	ウ
問二	エ	問三	オ	問四	エ	問五	イ	
問六	(1)	支 持	(2)	執 着	(3)	和 んだ		
(4)	か えり み た	(5)	ご う じ よ う	(6)	ざ つ と う			

問一(1)～(3)は各2点、(4)は4点
 問二～問六は各2点 《小計30点》

問一	うるおい	問二	水	問三	ウ	問四	オ	問五	イ	問六	エ
----	------	----	---	----	---	----	---	----	---	----	---

問一・二は各2点 問三～六は各4点 《小計20点》

7 問題別応答分析と指導上の留意点

- ・表右端の％は、抽出校6校の生徒300人の正答率若しくは誤答率である。
- ・分析内容のゴシック体は、高等学校学習指導要領（平成30年告示）の指導事項であることを示す。括弧の中の数字・記号の意味は、次の例のとおりである。

例：（「現代の国語」C(1)ア）…現代の国語C「読むこと」(1)指導事項のA文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握すること

- ・各表の％は、小数第二位で四捨五入したため、合計が100にならないことがある。

(1) 大問〔一〕現代文（論理的文章）の応答分析、考察、指導上の留意点

問一

小問	正誤	解答例	a群	b群	c群	合計	%
問一	正答	まだら模様	79	56	19	154	51.3
	誤答	車の両輪	2	6	15	23	7.7
		稀薄	3	6	13	22	7.3
		車	3	9	9	21	7.0
		その他	13	23	43	79	26.3
		(無答)				1	1

傍線部の内容を理解し、他の語に置き換える問題である。正答は「まだら模様」で、正答率は51.3%、〈a-b-c型〉を示している。

傍線部が、本文5行目「つよく印象づけられた部分もあれば、当然のこととして、さほどはっきりしない印象として受け入れられた部分もある」の換言だと気付くことができれば、正答に至る問題であり、半数以上の生徒が理解できていた。その他の誤答では、「忘却」や「脱落」を含むものなど忘却に関連する言葉が多く見受けられた。上表の誤答も合わせると、記憶の全体像の中に記憶の濃淡や忘却があることまでは理解できているが、全体像を「まだら模様」への言い換えには至っていないと考えられる。b・c群の生徒を中心に、**自分の考えや事柄が的確に伝わるよう、根拠の示し方や説明の仕方**を考えるとともに、**文章の種類や、文体、語句などの表現の仕方**を工夫すること（「現代の国語」B(1)ウ）を通して全体像を端的に表す短い言葉に言い換える指導を行う必要がある。

c群については、二語以上での誤答が3割近く見られたことから設問中の「一語」の意味を正しく理解できているかを確認し、文法的な事項の振り返りを行う必要もある。

問二

小問	正誤	解答例	a群	b群	c群	合計	%
問二	正答	ア（虹の写真を見て、異なる文化の～）	71	66	35	172	57.3
	誤答	エ（単なる日常の風景でも、見る人に～）	17	20	21	58	19.3
		イ（同じ湖を見て絵を描いた人たちが～）	5	4	27	36	12.0
		ウ（ある演劇を見たあとの感想文が、～）	6	8	9	23	7.7
		オ（展覧会に飾られていた美術作品の～）	1	2	5	8	2.7
		複数回答				3	3

傍線部の内容を理解し、適当でない具体例を選択する問題である。正答はア「虹の写真を見て異なる文化の人々が違った配色で認識すること」で、正答率は57.3%、〈a-b-c型〉を示している。

本問では、傍線部における抽象的な話題を捉えること、選択肢の具体例がどんな抽象的概念の具体例であるかを捉えることがポイントとなる。イ～オは、個性による記憶の違いについて述べた例であるが、アは、文化による認識の違いについて述べた例だと気付くことができれば正答に至る。

問三

小問	正誤	解答例	a群	b群	c群	合計	%
問三	正答	エ（人間の記憶とは個人の特性に左右～）	92	76	50	218	72.7
	誤答	イ（～人間はきめ細やかで質の高い～）	3	9	23	35	11.7
		ウ（～最もつよく印象に残った情報～）	5	12	18	35	11.7
		ア（～個人の心理的負担が大きくなる～）		2	4	6	2.0
		オ（～記憶の定着は努力によって変化～）		1	5	6	2.0

傍線部の内容を文脈に即して理解する問題である。正答はエ「人間の記憶とは個人の特性に大きく左右されるもので、得られた情報をすべて記憶するものではないということ」で、正答率は72.7%、〈a-b-c型〉を示している。

本問では、傍線部の直前に「別な言い方をすれば」という記述があることから、傍線部は前段落の換言であることを読み取ることができるかどうかのポイントとなる。前段落では、「人間の記憶の特質もまさに、その選択的記憶という点にある」とあるので、多くの生徒が、傍線部の「人間の記憶は、生理的・心理的」の換言が「選択的記憶」であることを理解できていた。誤答イについては、選択肢後半の「人間はきめ細やかで質の高い記憶ができる」という部分が、本文では触れられていない。それにも関わらず、c群で4分の1程度の解答が見られ、本文の内容よりも共感しやすい内容を選んだと考えられる。**文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握すること（「現代の国語」C(1)ア）**を踏まえた指導を丁寧に行いたい。

問四

小問	正誤	解答例	a群	b群	c群	合計	%
問四	正答	好ましいも	58	32	10	100	33.3
	誤答	人は記憶す	7	11	18	36	12.0
		究極のところ	12	11	2	25	8.3
		人間は美し	3	9	8	20	6.7
		日常生活で	3	7	9	19	6.3
		しかし、こ	5	7	5	17	5.7
		その他	12	23	45	80	26.7
		（無答）			3	3	1.0

複数の文章から共通する主張を見つけ出す問題である。正答は「好ましいも」で、正答率は33.3%、〈a-b-c型〉を示している。【文章Ⅰ】の「選択的記憶・忘却」を【文章Ⅱ】で端的に言い換えた部分が指摘できるかを問う問題である。

誤答としては「人は記憶す」（【文章Ⅱ】の7行目）が他の誤答と比べて1.5倍程度から2倍程度の多さであった。この誤答は文の途中から抜き出している。まずは、設問の用語を正しく理解させることから指導したい。また、この文はやや抽象的な表現であり、より端的に表現された部分が正答の文である。その他の誤答は、総じて人間は美しい出来事や経験を選び取って記憶することを述べている部分を解答している。傍線部から近い箇所に解答の手がかりがあると考えた可能性がある。文章を

的確に捉えるには、段落、文章へと視野を広げて、問われている事柄の本質を見極める力が求められる。目的に応じて、文章（略）に含まれている情報を相互に関係付けながら、内容や書き手の意図を解釈すること（「現代の国語」C(1)イ）に係る指導を行うことが有効だと考えられる。

問五

小問	正誤	解答例	a群	b群	c群	合計	%
問五	正答	イ（これまでは記憶が重視されて）	31	25	17	73	24.3
	誤答	オ（これまでは記憶が忘却に）	55	56	40	151	50.3
		ウ（これまでは忘却は軽視されて）	14	15	22	51	17.0
		エ（これまでは記憶が重視されて）		4	12	16	5.3
		ア（これまでは忘却が記憶に）			9	9	3.0

文脈に即して傍線部の内容を理解する問題である。正答はイ「これまでは記憶が重視されてきたが、完全記憶が可能なコンピューターが出現した現代では、忘却が人間らしさを示すと考えられるから」で、正答率は24.3%、低位の〈a b c型〉を示している。誤答として最も多かったものはオだが、これは「人間の精神構造を知る」ために忘却という事象を捉えようとしていると述べる選択肢である。

【文章Ⅰ】は、人間の精神構造を明らかにする必要性やそのための「鍵」について述べているのではない。傍線部の直前に「人間の精神構造」という語句があるため、一見して共感しやすい選択肢であるオを選んだという可能性も考えられる。

本文は忘却という観点で完全記憶が可能なコンピューターと比較しながら述べられている。比較の対象と目的を的確に捉える力を養わせたい。このためには、比較や対比の構造を用いて書かれている文章を読んだり、その構造を生かして文章を書いてみたりする活動が有効であろう。文章の種類を踏まえて、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握すること（「現代の国語」C(7)）に係る指導を行うことが有効だと考えられる。

問六

小問	正誤	解答例	a群	b群	c群	合計	%
問六	正答	ウ（～記憶と忘却は～）	71	51	25	147	49.0
	誤答	オ（～記憶と忘却には個人差があり～）	17	22	23	62	20.7
		エ（【文章Ⅰ】は記憶の限界により）	10	19	29	58	19.3
		イ（【文章Ⅰ】はコンピューターの）	2	5	19	26	8.7
		ア（～人間は情報をすべて記憶～）		3	4	7	2.3

異なる筆者の主張を適切に捉える問題である。正答はウ「【文章Ⅰ】も【文章Ⅱ】も、記憶と忘却は人間が人間として生きる感情を土台にした上で成り立つものであると述べている」で、正答率は49.0%、〈a－b－c型〉を示している。

問四と同様、複数のテキストを読み比べながら筆者の主張を的確に捉える力が求められる。その上で、本問は各文章全体を貫く筆者の考えを読み取る必要がある。誤答として多かったものはオであるが、どちらの文章においても、人間が人間らしくあるためにより多くの量を記憶する必要があるか否かという点を主張の中心としているわけではない。人間は各人の感情などに応じて記憶する事柄が選び取られている。ゆえに、問一のように記憶の様相として「まだら模様」を呈することがあるのである。本文中の表現に着目し過ぎるあまり、主題にまで迫ることができなかった生徒はオを選択したものと考えられる。異なる文章において、それぞれどのような主張がなされているかについて、叙述に即して丁寧に読み比べをさせる指導が効果的であると考えられる。

〈指導上の留意点〉

実態及び問題点

文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握すること（「現代の国語」C(1)ア）についての力が十分でない生徒が多い。

指導における改善の具体策

エキスパート活動とジグソー法で文章の要点の相互理解を図り、主旨を捉えさせる。

展開1 (ねらい：エキスパート活動で文章の担当部分を理解する)

大問[一]文章Ⅰの1～11行目の担当をA, 12～27行目をB, 28～42行目をC, 文章ⅡをDとして本文全体を分け、それぞれ5人グループを基本とし、図1のようにA-①班5人, A-②班5人のように各担当を2班ずつに分け、8班に分かれて活動を行う。また、それぞれの班の中でA-①班1のように、5人に1～5の数字を割り当てる。

それぞれの班の中で、担当部分の内容を理解し、他の班の人にどのように説明するかを考える。その際、担当部分にタイトルを付けたり流れや大事な部分を強調したりするよう指導する。また、次の展開では、担当部分の内容を各自一人で説明することを伝え、主体的に活動に参加するよう意識付けを行う。

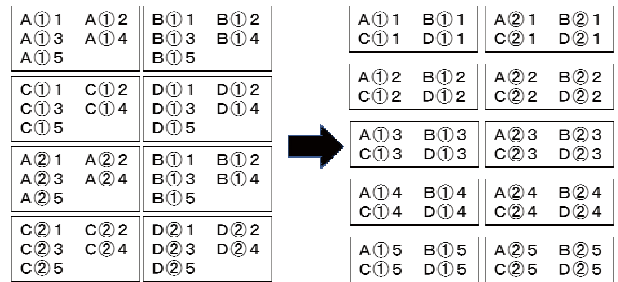


図1

図2

展開2 (ねらい：ジグソー法で文章全体を理解する)

各担当部分で分けた班を、図2のようにA-①班1, B-①班1, C-①班1, D-①班1という4人グループになるよう再編成し、10班に分かれて活動を行う。

再編成した班で、AからDの順番に展開1で理解した内容を説明し、相互理解を図る。

展開3 (ねらい：筆者の主張や文章の要旨を捉える)

展開1のグループで行ったエキスパート活動で付けたA～Cのタイトルを使って、文章Ⅰ全体の展開を確認させる。その後、文章Ⅰを通して、筆者が最も伝えたいことを簡潔な一文にまとめさせる。その際、Dを担当した生徒には、文章Ⅱを踏まえてまとめさせる。文の表現を「○○ということについて、△△ということ伝えたい」という形に統一するなどして、話題と内容が明確に分かるような形でまとめさせる。

展開4 (ねらい：相互評価を通して他者の理解や表現を知る)

展開3でまとめた文を発表させ、クラス全体で共有する。発表の際は、なぜそのまとめの文になったかという理由を必ず説明させる。また、発表を聞くときにはメモを取らせ、発表が終わった後で、どの班のまとめの文がいちばんよかったかを理由とともに書かせて提出させる。

展開5 (ねらい：他者の評価を知る)

展開4で提出させた評価を集計し、よいものとして選ばれた理由をまとめたものを配布して評価のフィードバックを行う。その際、同系統の理由をまとめる、票数を明記しないなど生徒の実態に合わせたフィードバックの方法をとるよう留意する。

- 発展
- ・活動を行う前に、まとめの文を各自で作らせておき、活動後のまとめの文と比較する。
 - ・他者評価を基に、展開2の班で反省を行う。

(2) 大問 [二] 現代文 (文学的文章) の応答分析, 考察, 指導上の留意点

問一

小問	正誤	解答例	a群	b群	c群	合計	%
問一	正答	オ (たとえ他者に理解されない～)	89	92	59	240	80.0
	誤答	エ (「僕」とのかみ合わない会話で～)	8	2	8	18	6.0
		ウ (人だけでなく～)	1	2	14	17	5.7
		イ (石について熱く語りすぎた～)	2	3	8	13	4.3
		ア (自分の趣味が他者に～)		1	11	12	4.0

文中の特色ある表現から人物像を理解する問題である。正答はオ「たとえ他者に理解されないことであっても自分の好きなことを貫く, くるみの精神的な強さ」で, 正答率は80.0%, 高位の〈b a-c型〉を示している。

傍線部「ずんずんと」に「人が勢いよくためらわずに進んでいくさま」という意味があること, そして傍線部の前の「僕」とのやり取りから, 「くるみ」が趣味に関して, 他人からの評価を気に留めない人物であることを読み取ることができていれば正答に至る。誤答を選んだ生徒は, 語彙の力や文章中の表現が文脈の中でどのような意味をもつのかを読み取る力に課題があると推測される。

問二

小問	正誤	解答例	a群	b群	c群	合計	%
問二	正答	ウ (わからないことを経験しようとする～)	76	59	46	181	60.3
	誤答	エ (わかるもの同士の会話には～)	8	17	12	37	12.3
		ア (わからなかったことを理解～)	4	11	19	34	11.3
		オ (わからないことについて～)	6	9	11	26	8.7
		イ (わからないことも時間を～)	5	4	12	21	7.0
		(無答)	1			1	0.3

文脈に即して傍線部の理由を読み解く問題である。正答はウ「わからないことを経験しようとすることに価値を感じるから」で, 正答率は60.3%, 〈a-b-c型〉を示している。

本問は, 1行目からの「くるみ」とのやり取りから「僕」が「わからない」ということにおもしろさを感じたという展開を丁寧に読み取ることができれば, 正答に至る。

誤答の中で, ア・エを選んだ生徒は, 傍線部の直前の内容を, 理解に至るまでの困難さが楽しさにつながると読み取ったものと推察でき, 「僕」が「くるみ」とのやり取りを, 理解できないまま「おもしろい」と感じていることを捉えられていない。話題の中心や文章の構成, 展開などを確認しながら読み解く力が求められることから, 文章の種類を踏まえて, 内容や構成, 展開などについて叙述を基に的確に捉えること (「言語文化」B(1)ア) に関する指導を重点的に行う必要がある。

問三

小問	正誤	解 答 例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問三	正答	ア（周囲からの孤立を受け入れる～）	81	58	26	165	55.0
	誤答	エ（意を決して趣味を告白したため～）	6	23	26	55	18.3
		イ（誤解を招く自分の行為で不安に～）	11	12	30	53	17.7
		ウ（自分の謝罪を受け入れてくれる～）	2	6	16	24	8.0
		オ（本当は、仲間に入れてほしい～）		1	2	3	1.0

文脈に即して登場人物の心情を理解する問題である。正答はア「周囲からの孤立を受け入れることも考えていたが、宮多の飾り気のない返信を読んで、先入観にとらわれていた自分の心が緩んでいくのを感じている」で、正答率は55.0%、〈a－b－c型〉を示している。

傍線部の「僕」の心情を読み解くには、31行目「文字を入力する指がひどく震え」ていた理由を押さえる必要がある。この指の震えが、自分の趣味を理解してもらえないとの先入観から、今から送るメッセージによって友人を失うかもしれないことへの「僕」の葛藤を表していることが分かれば、「宮多」の返信を読んで安堵する心情も読み取れる。エを選んだ生徒は、「僕」に葛藤があったことは理解しているが、選択肢「疑いの気持ちを募らせている」を、傍線部直後の「わかってもらえない」という表現に短絡的に結び付けた可能性がある。また、イを選んだ生徒は、本文中の叙述を踏まえてはいるものの、肝心の「僕」の葛藤を考慮に入れていない。

正答率の低かったb・c群の生徒を中心に、一部の描写のみに着目するのではなく、まず全体の流れを押さえること、すなわち、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えること（「言語文化」B(1)ア）に関する指導を重点的に行う必要がある。

問四

小問	正誤	解 答 例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問四	正答	イ（これまで自分は他者に受け～）	96	85	55	236	78.7
	誤答	ウ（これまで自分の好きなことを～）	4	12	18	34	11.3
		エ（これまで自分のことは他者に～）		3	12	15	5.0
		ア（これまでずっと自分のことを～）			10	10	3.3
		オ（これまで自分には友人は必要～）			5	5	1.7

文脈に即して登場人物の心情の変化を理解する問題である。正答はイ「これまで自分は他者に受け入れられないと思いこんでいたが、宮多とのやり取りを通して自分自身も他者を知る努力をしていなかったことに気付いたため、自分の態度を改めようとしている」で、正答率は78.7%、〈a b－c型〉を示している。

問三同様、自分の好きなことを追求することは誰にも理解されない孤独に耐えることだとする「僕」の思い込みが、「宮多」の発言によって覆され、同時に「僕」の内省を促していくという流れが押さえられれば正答に至る。ウを選んだ生徒は、「僕」の心情の変化をおおむね理解できているものの、「好きではないことを好きなふりをする」ことに違和感をもち続けてきた「僕」の心情への考察が足りず、知ることと好きになることを混同したと考えられる。

特に正答率の低かったc群の生徒は、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈すること（「言語文化」B(1)イ）に課題があるため、文章全体の構成や流れを押さえた上で、細部の表現を丁寧に読む姿勢を定着させる必要がある。そのためには作品の内容や形式について、批評したり討論したりする活動（「言語文化」B(2)イ）が有効であろう。

問五

小問	正誤	解 答 例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問五	正答	覚悟	54	38	23	115	38.3
	誤答	意思	43	47	24	114	38.0
		刺繍		5	9	14	4.7
		装飾		1	9	10	3.3
		その他 (太陽, 趣味, 明日, 感情, 速度, 宮 多, 意志など)	3	9	28	40	13.3
		(無 答)			7	7	2.3

文脈に合った適切な語を抜き出す問題である。正答は「覚悟」で、正答率は38.3%、〈a－b－c型〉を示している。

傍線部直前の文章から趣味や友人関係に積極的に関わっていこうとする「僕」の決意が読み取れる。そのため、「靴紐をきつく締め直」すという行為は、それに関連した「僕」の前向きな気持ちと考えられ「靴紐」の言い換えとして「覚悟」が最も適当である。誤答で最も多かった「意思」と抜き出した生徒は、靴紐が「僕」の心情を表していることは理解しているようである。しかし、「意思」には、考えること以上の意味合いはない。恐らく強い意向を表す〈意志〉と混同したと考えられる。一方で「刺繍」「装飾」と誤答した生徒は、前後の文を読まず「靴紐」という名詞にのみ着目した結果、心情ではなく「僕」の趣味に関連する名詞を探した可能性がある。登場人物の心情がどのような表現となって文章に表れているかを把握できる力が求められるだろう。そのため、自分の体験や思いが効果的に伝わるよう、文章の種類、構成、展開や、文体、描写、語句などの表現の仕方を工夫すること（「言語文化」A(1)イ）を中心に指導していく必要がある。

問六

小問	正誤	解 答 例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問六	正答	エ (複数の登場人物の視点を～)	79	53	30	162	54.0
	誤答	ウ (各場面で短文を多用すること～)	7	11	24	42	14.0
		イ (擬態語や擬音語を効果的に～)	7	13	21	41	13.7
		オ (体言止めや倒置法を用いる～)	4	18	17	39	13.0
		ア (登場人物の会話部分に方言を～)	2	5	8	15	5.0
		(その他)	1			1	0.3

本文全体の表現の特徴について理解する問題である。正答はエ「複数の登場人物の視点を切り替えて描写することで、場面ごとの複雑な心情を明確に表現している」で、正答率は54.0%、〈a－b－c型〉を示している。

物語の中心や全ての出来事が「僕」の一人称視点で展開されていることが理解できれば「複数の視点を切り替えて描写」というエは適当でないと分かる。エを選択しなかった生徒は「くるみは少し考えて」の文章をくるみ視点の描写と誤読したのであろうか。また、イ・ウ・オが表現技法に関する説明であり、いずれも正答率に差がないため、修辞法の知識が浅かったり、技法がどう文章に作用しているか理解できていなかったりするのではないか。そのため、文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価すること（「言語文化」B(1)ウ）に関する指導や、作品の内容や形式について、批評したり討論したりする活動（「言語文化」B(2)イ）に関する言語活動を行う必要

があるだろう。

〈指導上の留意点〉

実態及び問題点
問五の問題のように、特徴のある表現に注目してその意味するところを考えていく力が身に付いていないと感じられる。
指導における改善の具体策
本文の「靴紐」にのみ焦点を当てて質問づくりを行い、「靴紐」のもつ表現の効果についてレポートにまとめ、発表する。生徒自身の疑問点を出発点とする授業をすることで、物語をもっと理解したいという知的好奇心を呼び起こしたい。
【指導展開例】
展開1 〈「靴紐」に関する質問をつくる〉 (個人活動→グループ活動) <ul style="list-style-type: none">・質問の焦点を「靴紐」のみとして、できるだけ多くの疑問点や質問を書き出す。 例：「『水を縫う』という話に靴紐は必要なのか」 「なぜ僕は靴紐をきつく締め直したのか」 「靴紐がほどけたことによる僕の気付きは何か」 「靴紐ではなく他のものに置き換えるなら何か」など <ul style="list-style-type: none">・その後、グループ活動を行い、個人で書き出した質問を共有し、その中で考えてみたい質問を絞る。
展開2 〈質問の答えを考える〉 (グループ活動→個人活動) <ul style="list-style-type: none">・展開1で絞った質問の答えをグループで考える。・絞った質問について考えたことを個人でレポートにまとめる。
展開3 〈答えを発表する〉 (グループ活動→代表者発表) <ul style="list-style-type: none">・グループ内でレポートを読み比べ、相互評価する。・各グループで最も説得力のあるレポートを書いた生徒を一人選び、全体で発表する。・他のグループの発表を聞き、感想を書く。・自分のレポートの手直しを行う。
【教員による評価】 <ul style="list-style-type: none">・ルーブリックを作成し、手直しをする前と手直しをした後の生徒のレポートを評価する。
※このような言語活動は、『羅生門』における下人の「にきび」や『こころ』における「襖」の表現などにも応用することができる。

※高等学校学習指導要領（平成30年告示）「言語文化」B読むこと(2)イに対応。

(3) 大問 [三] 国語基礎力の応答分析, 考察, 指導上の留意点

問一 (複数解答や無答は省略している)

小問	正誤	解答例	a群	b群	c群	合計	%
問一 (1)	正答	イ (月に本を1冊以上読んでいる人~)	97	94	82	273	91.0
	誤答	エ (月に本を3冊以上読むと答えた人~)	3	3	11	17	5.7
		ア (月に本を全く読まない人~)		2	2	4	1.3
		ウ (月に本を1冊でも読んでいる人~)		1	2	3	1.0
		オ (月に本を3冊以上読む人~)			2	2	0.7

提示された資料から読み取れることとして「適当でないもの」を答える問題である。正答はイで、正答率は91.0%、高位の〈a b - c型〉を示している。

小問	正誤	解答例	a群	b群	c群	合計	%
問一 (2)	正答	オ (月に読む本の冊数が増えるに~)	89	76	43	208	69.3
	誤答	ウ (月に本を何冊読むかにかかわらず~)	6	7	28	41	13.7
		ア (媒体を問わず月に本を読む人は~)	2	9	11	22	7.3
		イ (月に本を3冊以上読む人のうち~)	1	4	9	14	4.7
		エ (月に読む本の冊数が増えるほど~)	1	4	7	12	4.0

資料から読み取れることを答える問題である。正答はオで、正答率は69.3%、〈a b - c型〉を示している。誤答ウを選んだ生徒は、【資料2】の「全体」の棒グラフを見て「紙の本だけを使う 45.5%」から判断した、あるいは「~にかかわらず」の表現に惑わされた可能性がある。

小問	正誤	解答例	a群	b群	c群	合計	%
問一 (3)	正答	ア (実物としてあることの満足感が~)	100	95	82	277	92.3
	誤答	エ (目にやさしく視力低下を防ぐ~)		2	6	8	2.7
		イ (友人と気楽に貸し借りする~)		3	3	6	2.0
		ウ (ページの行き来がしやすく~)			5	5	1.7
		オ (読書後の感動を常に思い出す~)			4	4	1.3

資料中の具体例を的確に言い換える問題である。正答はアで、正答率は92.3%、高位の〈a b - c型〉を示している。

小問	正誤	解答例	a群	b群	c群	合計	%
問一 (4)	正答	ウ	93	75	52	220	73.3
	誤答	ア	4	12	19	35	11.7
		イ	2	9	12	23	7.7
		オ		4	12	16	5.3
		エ			5	5	1.7

資料を基にした主張を理解する問題である。正答はウで、正答率は73.3%、〈a - b - c型〉を示している。設問に言葉で表現されてはいないが、ア・ウで8割を超えているように、「現在の本を読む媒体」について理解できている点は評価できる。

問二（複数解答や無答は省略している）

小問	正誤	解 答 例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問二	正答	エ（勇敢な）	83	63	40	186	62.0
	誤答	ア（名作だ）	8	15	21	44	14.7
		ウ（励んだ）	3	8	23	34	11.3
		イ（美しさ）	2	6	8	16	5.3
		オ（明るい）	4	6	5	15	5.0

品詞を答える問題である。正答率は62.0%、〈a－b－c型〉を示している。形容動詞が「～な」に活用すると知っていれば誤答アを選択することは避けられる。

問三（無答は省略している）

小問	正誤	解 答 例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問三	正答	オ（「生意気なことを言う <u>な</u> 。」）	99	94	78	271	90.3
	誤答	エ（～あと十日しかないんだ <u>よ</u> 。」）		2	10	12	4.0
		ウ（～、いいかげんにしない <u>か</u> 。」）	1	3	3	7	2.3
		イ（～それがドレミファ <u>かい</u> 。」）		1	4	5	1.7
		ア（なかなかつかれる <u>ぞ</u> 。」）			4	4	1.3

助詞の用法に関する問題である。正答はオで、正答率は90.3%、高位の〈a b－c型〉を示している。

問四（複数解答は省略している）

小問	正誤	解 答 例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問四	正答	エ（決められた <u>帰還</u> のうちに～）	94	75	56	225	75.0
	誤答	ウ（～独自の <u>機関誌</u> を発行して～）	6	14	20	40	13.4
		イ（～この国の産業の <u>基幹</u> をなす～）		4	17	21	7.0
		オ（～消化し吸収するための <u>器官</u> ～）		6	2	8	2.7
		ア（ <u>既刊</u> の雑誌を取り寄せる～）		1	4	5	1.7

同音異義語の問題である。正答率は75.0%、〈a－b－c型〉を示している。

問五（複数解答は省略している）

小問	正誤	解 答 例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問五	正答	イ（風上にも置けない）	42	17	17	76	25.3
	誤答	ウ（汚名を挽回する）	41	56	41	138	46.0
		ア（取りつく暇もない）	8	9	14	31	10.3
		オ（口先三寸）	5	8	15	28	9.3
		エ（白羽の矢を当てる）	4	9	12	25	8.3

正しい慣用句を答える問題である。正答率は25.3%、〈a－b c型〉を示している。間違えやすい慣用句の代表例とも言える「汚名返上」「名誉挽回」をはじめ、誤答の人数がばらついている点に注目すると、言葉を曖昧にしか捉えていないことがうかがえる。我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること（「言語文化」〔知識及び技能〕(1)ウ）に関する指導が求められる。

問六

小問	正誤	解 答 例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問六 (1)	正答	支持	86	74	34	194	64.7
	誤答	指示	5	13	35	53	17.7
		指□, □指 (指支, 指事, 支指, 示指など)	1	4	11	16	5.3
		□持 (示持, 指持, 仕持, 視持)	5	4	3	12	4.0
		(その他)	3	3	6	12	4.0
		(無 答)		2	11	13	4.3

「シジ」を漢字に直す問題で、正答率は64.7%、〈a b - c型〉を示している。平成11年度（正答率33.8%）、平成18年度（正答率46.0%）と比較すると、正答率は上昇している。

小問	正誤	解 答 例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問六 (2)	正答	執着	48	22	7	77	25.7
	誤答	収着	14	8	20	42	14.0
		終着	1	11	11	23	7.7
		□着 (集着, 就着, 修着, 周着など)	26	36	25	87	29.0
		(その他)	1	4	4	9	3.0
		(無 答)	10	19	33	62	20.7

「シュウチャク」を漢字に直す問題で、正答率は25.7%、〈a - b - c型〉を示している。「シュウ」部分が空欄の解答以外に、16種類の「□着」が見られた。

小問	正誤	解 答 例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問六 (3)	正答	和	88	63	32	183	61.0
	誤答	緩	2	5	8	15	5.0
		暖	1	3		4	1.3
		(その他)	3	7	25	35	11.7
		(無 答)	6	22	35	63	21.0

「ナゴ(む)」を漢字に直す問題で、正答率は61.0%、群間差の大きい〈a - b - c型〉を示している。「その他」には、(2)と同様、25種類の誤答がある。「穏」「朗」など意味を考えようとしているであろうものから、「拒」「漂」など「訓読み」として学習したことだけを頼りにしていると思われるものまで、誤答の幅が広い。

小問	正誤	解 答 例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問六 (4)	正答	かえり (みる)	87	66	37	190	63.3
	誤答	こころ (みる)	8	15	39	62	20.7
		かんが (みる)	4	2	2	8	2.7
		はぶ (みる)		4	2	6	2.0
		(その他)		8	12	20	6.7
		(無 答)	1	5	8	14	4.7

「省(みる)」の読みを答える問題で、正答率は63.3%、〈a - b - c型〉を示している。誤答の多くは、「省」より「みる」の部分を見て解答している様子が見える。

小問	正誤	解 答 例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問六 (5)	正答	ごうじょう	95	75	47	217	72.3
	誤答	きょうじょう	3	21	38	62	20.7
		(その他)	2	3	11	16	5.3
		(無 答)		1	4	5	1.7

「強情」の読みを答える問題で、正答率は72.7%、〈a－b－c型〉を示している。

小問	正誤	解 答 例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問六 (6)	正答	ざっとう	76	50	15	141	47.0
	誤答	ざっと	4	7	4	15	5.0
		ざつろ	4	3	8	15	5.0
		ざつ□, ざっ□ (ざっふ, ざつふみなど)	10	24	49	83	27.7
		ぞう□ (ぞうふ, ぞうふみなど)	5	10	10	25	8.3
		(その他)	1		3	4	1.3
		(無 答)		6	11	17	5.7

「雑踏」の読みを答える問題で、正答率は47.0%、群間差の大きい〈a－b－c型〉を示している。問六全体を通して、読書体験などによって漢字で表現されたものを見ているかどうかの差が大きいと思われる。

〈指導上の留意点〉

実態及び問題点			
<p>今回の分析において、言葉による説明・グラフ・図式を相関させる思考がある程度できていることがうかがえた。これからは、データ・サイエンスの基礎となる確立・統計を重視し、文系・理系に分断されている実態を改めようとの動きがある。理科や数学との教科横断的な授業で、グラフ・図式を文章化する活動を行えば、情報活用能力の育成に寄与するのではないか。</p>			
指導における改善の具体策			
<p>「現代の国語」C(2)イにおいて、図表などを伴う文章を読み、理解したことや解釈したことを(中略)他の形式の文章に書き換えることが言語活動例に挙げられている。日常生活や自然から得られた事柄を数学的視点で捉え言語化する(数学的モデル化)という活動を通じて、論理的思考力を伸ばしたい。</p>			
【指導展開例】			
<p>※ 展開1は、調査結果に鑑みれば容易に取り組むことができるであろう。しかし、展開2に進んだときにつまずくとなれば、生徒がどこに困難さを感じているのか把握できるのではないか。つまり、数学や理科で数式だけが示されたとき、数式の意味するところを自分の言葉では説明できないという課題が明確になるであろう。</p>			
<p>※ 数学Aの確率の内容を扱うため、数学科の進捗を確認する必要がある。</p>			
<p>※ 生徒の実態に合わせ、各展開例を組み合わせる行うことが望ましい。</p>			
<p>問い 次の数学の問題について、各設問に答えよう。</p>			
<p>ある駄菓子屋の商品50個について、それぞれの値段を調べたところ、右記の表のようになった。</p>			
	玩具	菓子	計
70円以上	10	10	20
70円未満	5	25	30
計	15	35	50

展開1 知識・技能 (評価の規準：情報とそれを表す言葉を正確に関連付けて、的確に判断している)

〈設問〉表から読み取れることとして、適当なものには○を付け、適当でないものは正しく直そう。

基本問題	ア 全体の商品のうち、70円未満の商品は30個である。 イ 70円以上の商品のうち、玩具は20個である。 ウ 菓子と玩具では、70円以上の商品の割合が大きいのは玩具である。 エ 菓子でありかつ70円未満の商品は、全体の3分の1以下である。 オ 菓子のうち、4割しか70円以上の商品はない。
解答例	ア ○ イ 20→10 ウ ○ エ 3分の1以下→2分の1 オ 4割→3割以下(約28.6%) (「しか」に関しては言及できないことも含めて)

発展問題	ア 商品全体のうち、70円未満の商品は玩具より菓子のほうが多い。 イ 70円未満の商品の個数は、菓子は玩具の6倍以上である。 ウ 玩具の個数は全体の4割以下であり、そのうち70円以上の商品は2分の1以下である。 エ 菓子全体に占める70円未満の商品の割合は、玩具全体に占める70円未満の商品の割合より小さい。 オ 玩具の総個数は菓子より少ないが、70円以上の商品の占める割合は菓子より大きい。
解答例	ア ○ イ 6倍以上→5倍 ウ 前半○ 後半 2分の1以下→3分の2 (「その」が「玩具」を指すことを把握すること) エ 小さい→大きい (菓子約71.4%, 玩具約33.3%) オ ○

展開2 思考・判断・表現 (評価の規準：情報を正確に把握し、言葉に的確に置き換えている)

〈設問〉表から読み取れることについて、説明する文を作ってみよう。

〈解答例〉全体のうち、少なくとも6割は70円未満の商品である。

- ・菓子でありかつ70円未満の商品は、25個である。
- ・玩具である、または70円以上である、いずれかの条件を満たす商品は25個ある。

生徒の実態に応じて、説明する文に使う言葉をヒントとして挙げておいてもよい。
例：「少なくとも」「かつ」「または」

展開3 思考・判断・表現+主体的に学習に取り組む態度

(評価の規準：情報を的確に表現できるよう、試行錯誤している)

集合Xの要素の個数を $n(X)$ 、事象Xの起こる確率を $P(X)$ で表す。また、事象Aが起こったときに事象Bの起こる確率を、Aが起こったときのBの起こる条件付き確率といい、 $P_A(B)$ で表す。

〈設問〉駄菓子屋の商品の中から一つ選ぶとき、次の数字や数式を言葉で表現しよう。

選んだ商品が「ア」である事象をA、「イ」である事象をBとする。

ウ $n(A) = 35$ エ $n(A \cap B) = 10$ オ $P(B) = \frac{20}{50}$ カ $P_A(B) = \frac{n(A \cap B)}{n(A)} = \frac{10}{35}$

〈解答例〉ア 菓子 イ 70円以上 ウ 商品全体のうち、菓子の個数は35個である。

エ 商品全体のうち、菓子でありかつ70円以上である商品の個数は10個である。

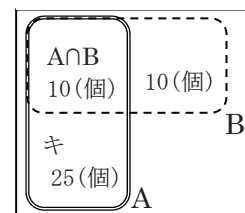
オ 商品全体から一つを選んだとき、それが70円以上である確率は、50分の20である。

カ 菓子を一つ選んだとき、それが70円以上である確率は、35分の10である。

キ 70円未満の菓子の個数

※商品全体のうち「菓子でありかつ70円未満である商品の個数」若しくは「菓子のうち、70円以上である10個を除いた70円未満の個数」などの記述が考えられるが、まとめる力を付けさせたい。

商品全体 50 (個)



(4) 大問 [四] 古典 (古文) の応答分析, 考察, 指導上の留意点

問一

小問	正誤	解答例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問一	正答	うるおい	99	99	89	287	95.7
	誤答	うるおし		1	2	3	1.0
		仮名遣いの誤り (うるおひ, うるをい)	1		2	3	1.0
		(その他)			1	1	0.3
		(無答)			6	6	2.0

歴史的仮名遣いの知識を確認する問題である。正答は「うるおい」で、正答率は95.7%、高位の〈a-b-c型〉を示している。

正答に至るには、「を」を「お」と読むこと、語頭以外の「ひ」を「い」と読むことなど、古文の音読に必要な文語知識を備えていなくてはならない。どの群を見ても高い正答率を示していることから、歴史的仮名遣いに関する知識は多くの生徒に定着しているといえる。わずかにあった誤答では多くが一字の誤りとなっており、注意すべき部分が二箇所に移るという意識に欠けていたと考えられる。a・b群に比べて若干正答率の低かったc群の生徒は、**古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解すること** (「言語文化」〔知識及び技能〕(2)ウ) に課題がある。歴史的仮名遣いが全ての古文学習の基本になっていることを念頭に置き、知識を整理して伝えられるよう留意する必要がある。

問二

小問	正誤	解答例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問二	正答	水	71	42	12	125	41.7
	誤答	石	20	35	38	93	31.0
		其		8	12	20	6.7
		玉	4	5	3	12	4.0
		(その他)	5	8	25	38	12.7
		(無答)		2	10	12	4.0

文脈に即して空欄を補充する問題である。正答は「水」で、正答率は41.7%、群間差の大きい〈a-b-c型〉を示している。

空欄を含む「としなへにうるほひ□□の出る」と同義の箇所「不断水気うるほひ出し」に気付くことができれば正答に至る。最も多い誤答である「石」と解答した生徒は、石から水が出るという点は理解できているものの、「出る」ものである「水」ではなく、「出す」ものとしての「石」を選択したと考えられる。また、「石」と同じく「出す」ものである「玉」という解答についても、同様の考え方をしたものであろう。同義の箇所を見つけられず、「うるほひ」を「水」と捉えて「石」という解答をした生徒もいると考えられるため、**文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えること** (「言語文化」B(1)ア) に基づき、空欄を含む箇所だけでなく前後の文脈を意識した読解をするための指導が求められる。

問三

小問	正誤	解答例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問三	正答	ウ（特別な事情のある石であろう）	47	26	14	87	29.0
	誤答	エ（細工のほどこされた石であろう）	30	26	24	80	26.7
		イ（細工のほどこされた石ではない）	13	28	37	78	26.0
		オ（特別な事情のある石であってはならない）	1	13	14	28	9.3
		ア（特別な事情のある石ではなさそうだ）	8	6	7	21	7.0
		（その他）	1			1	0.3
		（無答）		1	4	5	1.7

文脈に即して傍線部の内容を理解する問題である。正答はウ「特別な事情のある石であろう」で、正答率は29.0%、〈a－b c型〉を示している。

本問は二通りの解き方がある。まずは、「子細」を「いわれ・事情」と訳すこと、文末の「ん」が推量の用法であることを知っていれば、単純な現代語訳として正答に至ることができる。また、この主人の発言は、唐人の申し出を訝しんでいる時点のものであることから、細工の有無について判断するものではないことや、「特別な事情」についても推察している段階であるということが分かる。

「子細」を「細工」と訳している誤答エ・イを選択した生徒が過半数いたことから、漢字のイメージに引っ張られて解答してしまった生徒が多くいたことが分かる。加えてc群は、「ん」を打消と捉えてイを選択した生徒が多かったことも注目すべき点である。また、a群においても誤答を選択した生徒が半数以上いることから、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えること（「言語文化」B(1)ア）を重視して指導する必要がある。

問四

小問	正誤	解答例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問四	正答	オ（石を丁寧に～無念に思う気持ち）	77	32	15	124	41.3
	誤答	イ（石を無理に～悲しく思う気持ち）	19	52	47	118	39.3
		エ（石を研ぎ削る～情けなく思う気持ち）	2	9	17	28	9.3
		ウ（石を磨く技術が～残念に思う気持ち）	1	5	9	15	5.0
		ア（石を何人もの～悔しく思う気持ち）	1	1	6	8	2.7
		（無答）		1	6	7	2.3

文脈に即して人物の心情を理解する問題である。正答はオ「石を丁寧に磨かなかつたために、価値のあるものを破損してしまったことを無念に思う気持ち」で、正答率は41.3%、〈a－b c型〉を示している。

唐人が涙した理由は、傍線部の後に「右は玉中に蟄せしものありて、右玉の損ぜざるやうに静かに磨きあげぬれば千金の器物なり」と語っているように、貴重な石が損なわれてしまったからである。a群の生徒の多くは、傍線部の前後を読み取って正答に至っているが、a群の生徒の誤答の大半及びb・c群の生徒の半数は、傍線部の前の「其の事、跡にて彼の唐人聞きて」のみを読んで、石を破損した結果の「其の石中より水流れ出て小魚出たるが、忽ちに死しけれ」という箇所が涙の理由に当たると考え、唐人の心情を魚の死を悲しむものとしたイを選択している。唐人が「其の事」を聞いて涙したのは事実であるが、「是れをおしみける故くはしく尋ねけれ」の後に語られるより詳しい理由を根拠とする方が適当である。文章全体を丁寧に読み解き、文脈を正確に理解するための指導をする必要がある。

問五

小問	正誤	解 答 例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問五	正答	イ	80	48	29	157	52.3
	誤答	ウ	17	37	39	93	31.0
		オ	2	13	16	31	10.3
		エ			10	10	3.3
		ア	1	2	3	6	2.0
		(無 答)			3	3	1.0

本文全体の内容に即して正しい模式図を選ぶ問題である。正答はイで、正答率は52.3%、〈a－b－c〉型を示している。

「其の石中より水流れ出て小魚出たる」という部分より、「石」の中に「水」の部分があり、更にその中に「小魚」がいるものを探すことができれば正答に至る。誤答ウを選んだ生徒は、本文中に出てくる「右石」の「右」が「その」という指示語としての意味ではなく、左右の「右側」という意味だと誤解したものと思われる。また、誤答エ・オを選んだ生徒は、「石」と「小魚」と「水」の位置関係を読み取ることができなかつたと考えられる。このような文章に書かれている内容を具体的に絵や図としてイメージする能力は、文章の理解ができているかどうかと密に結びついているため、授業内における取組を強化していきたい。

問六

小問	正誤	解 答 例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問六	正答	エ (才能のある者も～発揮しない)	92	73	44	209	69.7
	誤答	ア (才能のある者は～多い)	2	11	19	32	10.7
		イ (才能のある者も～成長しない)	3	8	15	26	8.7
		オ (才能のある者は～している)	3	6	11	20	6.7
		ウ (才能のある者は～できる)		1	6	7	2.3
		(無 答)		1	5	6	2.0

本文全体の内容に即して大意を理解する問題である。正答はエ「才能のある者も正しく扱わなければ力を発揮しない」で、正答率は69.7%、〈a－b－c型〉を示している。

本問で正答に至るには、選択肢中の「才能のある者」が、本文中では石を磨いた末に出てくる「玉」であることに気付く必要がある。誤答ア・ウ・オを選んだ生徒は、それぞれ選択した生徒の数がほぼ同数であることから、「才能のある者」を「主人」と誤解して選んだと考えられる。a群においてもそのような読み方をする生徒はおり、部分的な読みだけを終えたまま大意を捉えることなく進んでしまい、内容の正しい理解につながらなくなることが分かる。文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えること（「言語文化」B(1)ア）の重要性を念頭に置いた指導が求められる。

〈指導上の留意点〉

実態及び問題点	
<p>文章を理解するには、場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えること（中1Cイ）が必要である。しかし、日頃馴染みのない特有の表現や慣習が含まれる古典作品では、場面を的確に想像することができず、誤った理解をしてしまうこともある。そこで、様々な場面を図や現代語を用いて表現することで、誤読を防ぐとともに、人物関係や心情の変化にも思い至るよう意識させたい。</p>	
指導における改善の具体策	
<p>【指導における改善の具体策】</p> <p>口語訳を基にして、文章の内容を現代風にリライトする。その際、内容のポイントとなる箇所や登場人物の心情など、重要な要素を整理することで、内容の理解を深めさせたい。また、場面ごとの絵を描くことで、理解した内容を可視化させて読解を深めさせたい。</p> <p>【指導展開例】※生徒の実態に合わせて、各展開例を組み合わせて行うことが望ましい。</p> <p>展開①（ねらい：話の内容や展開を把握する）</p> <ul style="list-style-type: none"> 本文を読み、ワークシートを用いて話の内容を整理する【個人の活動】。 <p>※必要に応じて口語訳をつけてもよい。</p> <p>展開②（ねらい：話の要点や人物の心情についての理解を深める）</p> <ul style="list-style-type: none"> ワークシートの内容を話し合い、話の展開における要点をまとめる【グループワーク】。 グループごとに、本文中の印象的なシーンを一枚の絵にする【グループワーク】。 <p>展開③（ねらい：話の展開や登場人物の心情を自身に近いものとして捉え、関心を高める）</p> <ul style="list-style-type: none"> ②でまとめたことを元に、本文を現代風にリライトする【グループワーク】。 これと同様に、絵も同じシーンを現代風にアレンジしたものを作成する【グループワーク】。 完成したものを発表する【全体】。 どのグループの作品がよかったか検討し、どんな点がよかったか話し合う【ペアワーク】。 	
	<p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">(ワークシート例)</p>
<p>現代風に書き換えよう</p> <p>物語を現代風にリライトしよう。さらに下段で、この中のワンシーンを絵にしてみよう。</p> <p>【リライトを基にした絵】</p>	<p>古典を現代風書き換えてみよう</p> <p>（本文の要約） 唐人が（ ） しまった。 （ ） たものの、結局（ ） 主人が</p> <p>（印象的なシーンを書いてみよう） 私が選んだのは… のシーン。</p> <p>【原文を基にした絵】</p>

※高等学校学習指導要領（平成30年告示）「言語文化」B読むこと(1)アに対応。